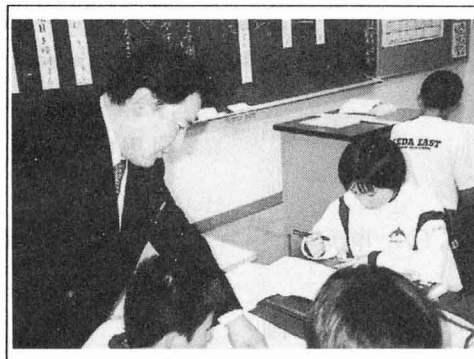


○ 学習過程

段階	学習活動・内容	形態	時間	活動援助上の手立て □ 評価
導入	1. 前時までの学習内容を振り返り、本時の課題を把握する。 書き言葉と話し言葉の違いを理解し、スピーチ原稿を作成する。	一斉	5分	・本時の学習に生かすために、前時までの学習内容を振り返らせる。 ・既習の学習内容（言葉の意一話し言葉と書き言葉）を確認させる。（視点1） 課題《原稿（書き言葉）をスピーチ（話し言葉）用に直す》を把握することができたか。（観察）
基礎	2. 書き言葉と話し言葉の違いを理解する。 (1) 例文で確認する。 (2) まちがいやすい言葉を発表する。 (3) 注意点をまとめる。 「です」「ます」調にする。 耳で聞いてわかりにくい言葉を使わない。 同音語 類音語 友達どうしの言葉 等	個別	35分 (15)	・取り組みやすくするため、日常生活の中でよく使われている例文を提示する。 ・自分の体験から、まちがって困った例・失敗した例等を発表させる。（視点2） ・聞き手の立場からの意見を大切に、スピーチに生かせるようにしたい。 ・発表させた例から、具体的な注意点をまとめる。また、生徒から発表されなかった点については具体例を挙げ、補足説明を加える。 書き言葉と話し言葉の違いを理解することができたか。（挙手・観察）
	3. スピーチ原稿を作成する。 (1) 原稿を読む。 (2) 原稿をチェックする。 (3) チェック項目を検討する。 (4) 原稿を作成する。	グループ 個別	(20)	・スピーチ原稿を作成する際の手順を明確にする。 ・グループになり、他の人の原稿を読ませる。 ・チェックする際、チェックした人がわかるように違う色を使うよう指示する。 ・チェックされた原稿に目を通し、疑問な点を相談・検討させる。（視点2） ・チェックされた言葉に注意させるとともに、聞き手の立場を考えて原稿を作成させる。 スピーチ原稿を作成することができたか。（観察）
総まとめ	4. スピーチの練習をする。 5. 次時の予告を聞く。	個別	10分	・スピーチをする際の注意点を教科書で確認させる。 ・発表したい生徒がいれば、積極的に発表させ、他の生徒への参考と意欲付けとなるよう配慮する。 ・次時の学習内容（スピーチをする）を予告し、各自練習をしておくよう指示する。



○ 授業風景



○ 発表風景

○ 学力向上の手立て

(基礎・基本の定着のための手立て)

- ・学習の方法（手順）を、カード等を用いて確認できるようにする。

(個に応じた支援のあり方)

- ・学習の効果を高める学習形態（一斉、グループ、個人）を工夫する。
- ・原稿用紙の工夫と個に応じた机間指導をする。

(表現力を高めるための手立てのあり方)

- ・表現上の基礎・基本となる事項（文法）を注意点としての確にとらえさせる。
- ・実態に応じ、取り組みやすい題材を設定をする。

(2) 成果と課題

- ・「文化祭」を題材として取り上げた生徒が多く、意欲的に取り組むことができた。また、共通の話題であり、他の人の考えや表現の仕方の工夫を理解することができた。
- ・日頃使っている原稿用紙に工夫を加えたものを使ったことで、書くことへの抵抗がやや薄れた。同時に、グループ学習の際、添削しやすく互いの意見交換もスムーズに進めることができた。
- ・学習効果を高めたり、ねらいに応じた学習形態を工夫することができなかった。
- ・文法上の注意点を段階的に指導する工夫の必要性を感じた。3年間を見通しての文法指導が今後の課題である。